

数ⅠAⅡB Aクラス

この一年で学習する内容は、大きく分けて二つあります。一つは、基本的な問題解法の「知識」の習得であり、他の一つは、問題解法の「発想」です。

夏期講習までの期間は、数ⅠⅡA B分野の重要な解法の「知識」の確認を行います。この期間は、今後の応用問題演習を行う上で、土台となる知識の習得の期間であり、この内容を十分に把握しておかないと、本格的学習に入る夏期講習以降の演習の中で最も大切な問題解法の「発想」に重点を置くことができず、学習効率は低下してしまいます。もちろん数学の学習で最も大切なのは、如何なる発想をするかなのですが、その発想も知識に裏付けされたその後の展開への「読み」があつてこそ生まれてくるものです。

授業は基本事項の確認を各自が行つてあることを前提に、残っている疑問に答えた後、入試問題演習とその解説を行い、各分野の応用力を高めていきます。現役で合格するためにはいたずらに難問に取り組む前にしっかりと基礎固めをしましょう。まずは関数・数列系の問題に対して確実に解法の方針が立てられる実力を身につけ、それからじっくり図形・確率に関する力を養いましょう。この一年でどこまで自分の学力が高められるのか、チャレンジジャーの気持ちで根気強く取り組んで下さい。

(松山)

数ⅢC Aクラス

数Ⅲ・Cの分野が難しい、と思われるのには3つの原因があります。一つは全く新しい概念や計算法をマスタ

ししなければならないこと。もう一つは素早く莫大な計算をしなければならぬ問題が多く出題されること。最後に数Ⅲ独特の解法パターンを身につける必要があることです。

実はどんな難関大学であつても数Ⅲ・Cの問題は「素直な」問題が多く、必要となるパターンもそれほど多くはないのですが、多くの高校では全範囲を終えるのが夏休み過ぎであるため、受験までに概念や計算を身につけるのがやっとということになりがちです。この講座では既に数Ⅲの基礎学習を終えているため、それら実践的解法を最初から丁寧にまとめ上げ、一般の受験生に差を付けることに主眼を置きます。さらに、後期には2つ以上のパターンの複合問題を扱い、最後に実践演習を行つて得点力に磨きをかける予定です。大切なのは実際に手を動かして、問題に当たつてみることに。数Ⅲは計算力の占める比重が大きいことを忘れず、地道に努力を積み重ねましょう。

(松山)

数ⅠAⅡB Bクラス

進度ですが、一学期中に数ⅡBを、夏期講習に数ⅠAを学習し、九月以降は入試問題を分野別に演習し、冬期講習から直前にかけては総合演習を行います。

授業では各分野の例題の解説をし、その後演習に入ります。数ⅠA・ⅡBについて学習済みとは言え、いろいろな範囲について不安を抱いているという人もいるかと思えます。そういう人達には、聖文新社の「高校数学Ⅰテキスト」(Ⅱ、A、Bについて

も同様です)をすすめています。このテキストは各範囲の定理、基本事項と典型的な例題がすべて載っていますので、復習するには最適です。館山塾で購入することができます。

数学の受験勉強は、解いた問題数が勝負だと思つて下さい。授業ではそのための基本、解法、問題を提供していきますし、困ったときはできうる限りサポートしていくつもりです。あとはみなさんのやる気次第です。さあ、頑張りましょう。

(熊倉)

数ⅢC Bクラス

進度ですが、春期講習から四月にかけて行列、その後一学期中は極限、微分、夏期講習から九月にかけて積分を学習します。その後、分野別に入試問題の演習、総合的な入試演習を行っていきます。

数ⅢCをはじめて学習する諸君を対象としていますので、基本からの解説をし、例題、そして演習と進めていきます。数Ⅲはかなり複雑な計算をすることが多いので、途中式の書き方とか、三角、指数・対数の公式の定着等、思いもよらぬ副産物があります。数Ⅱだけを勉強しているとなかなか式が変形していけなかったのが、何の苦もなく目的の形に変形していけるということが多々ありますので、楽しみにしておいて下さい。

受験科目としての数ⅢCも数ⅠⅡ同様、解いた問題数が勝負となります。一題でも多くの問題が解けるように、私も頑張りますが、みなさんも頑張ってください。

(熊倉)

現代文

「現代文はやらなくてもできる／いくらやってもできるようにならない」という間違えた思い込みがいまだに根強く存在しています。そういう世界の偏見に対して真つ向から挑戦します。現代文に自信がある人にはさらなるハイレベル・トレーニングを積んでもらい、何となくやっている人には想像出来ない「高見」に到達してもらいます。逆に、自信がない人には本質的な現代文読解方法をマスターしてもらい、今の自分の混迷を抜け出すルートを見つけてもらいます。ぜひ一緒に「大学入試」という18年間で最強の課題に前向きな気持ちでぶつかっていきましょう。

現代文の読解力を最小限の努力でかつ効果的に伸ばすためには、①継続的で、②実践的な答案作成練習が必要。①には添削指導のシステム、②には模試の形式が有効と思われまます。そこで、本講座の基本は、

読解力は、『自宅用課題(じっくり)』+『講義内演習(スピード)』の二本立てで伸ばす

となります。例えば、春期講習教材は、各日とも例題が二問(前が標準、後がやや難)からなっています。講義内の解説を通して、本文の構造読解方法、設問に対する思考方法を具体的に会得してもらうため、予習の密度が高ければ高いほど、諸君の理解レベルもスピードもアップすること間違いありません。理系でセンターのみという生徒は二問目を自主課題とすることも可能ですので、申し出て下さい。高校生活最後の一年。気持ちをこめた予習を期待しています。

さらに講義内ではそれぞれのクラスに応じた難易度の応用問題演習を30分程実施します。記号問題・記述問題をまんべんなく扱い、センター試験にも国立二

次試験にも私立入試にも対応できる応用力の養成を目指します。

しかし、それだけではまだ万全ではありません。そこで毎回の『語句テスト』。現代文読解において意外に多くの人のつまずきの原因が、ただ単純に語彙力(重要語句の読み・書き・意味)であるので驚かされます。予習プリントを通じて、「カタカナ語・難解語キーワード」の意味・用法をどんどん覚え、「入試頻出漢字」を徹底的にマスターしてもらいます。それゆえ講義の始めには「確認テスト」。これが知識問題「勝利の方程式」です。

講義形式の中にも少人数制を活かした個別指導のよさを取り入れ、一人一人の要望にしっかりとこたえながら進めていきたいと思えます。

(三輪)

古典

前期の目標

①家庭学習：講義で扱った文法事項、単語等を完全に理解して覚える。

・毎回、復習テストを実施します。テストの内容は、前回の授業で扱った古文の、部分訳、単語の読み、意味、文法事項、漢文句法の訓読、解釈です。夏休みまでの期間、平均点が七割を越えた人は、例年、難関校合格を果たしています。得点は毎回、掲示します。

②授業中：講義での説明を完璧に聞き取り、ノートを確実にとる。

・聞き取り能力と、学力は比例します。正確に聞き取れるかどうかは、集中力及び知識の吸収能力の差と言えます。この能力を高めることは、あらゆる科目の学力を高めることにもつながります。

前期のテキストは精読を心掛けますから、上記の通り、復習を完璧に。読む文章は一回一つですから、解説を聞き終わった時点では、文章全体の内容、出てきた単語・文法事項等全てが確実に頭に入っていないと、既に入試必須事項の大半を網羅しています。復習テストでは満点を目指して下さい。

この他、多読練習も随時実施していきますから、これも時間の許す限り、指定した教材(予定表参照)で練習を積んで下さい。訳付きの文庫本を各自入手し、原文を読んで、大筋が把握るかどうか確かめ、駄目なら訳を読み、再度原文を読む、という練習を繰り返して下さい。

予習は前提としませんが、するならば、①原文書写、②単語辞書引き、③全訳をして下さい。①だけでもしておくと、授業中のメモがとりやすくなります。事前に全訳を提出すれば、赤でチェックを入れて返却します。予習用紙が欲しい人は申し出て下さい。

その他、補助教材として、「英訳源氏物語」「英訳漢文」「センター試験古典問題選」「志望校別古文・漢文問題選」等、希望者に随時配布していく予定です。食欲にあらゆる知識を吸収して行って下さい。

後期は本格的な入試問題演習に入り、量をこなすことを心掛けます。また、単語テストも前期とは別形式で実施し、併せて文学史テストも行います。前期のうち上記の目標が達成できた人は、入試問題が難なく解けるようになり、現代人が喪失した世界観を古典から手に入れ、受験を超越した境地から、この世の真実の姿を学ぶこともできるようになります。

(胡子)

英語Aクラス

東大、一橋大、東工大などの国立大学や早慶上智など私立の最難関大学をめざす人たちのためのクラスです。ときどき生徒の中に「どれくらい勉強すれば合格点が取れますか」と聞きに来る人がいるのですが、これは愚問です。これらの大学の英語の入試問題で合格点を取る、さらには他科目で失敗しても英語で取りもどせる点を取るには、これだけ勉強しておけば大丈夫というものはありません。全力で取り組んでも手が届かない人もいるかもしれない。でも、だからこそ、今からなりふりかまわずがんばって自分の限界に挑戦して欲しい。また、それが将来絶対の必要になる英語力の基礎を築くことになります。

英語を習得するにはたいへん時間がかかります。でも、かけた時間に比例して確実に実力がつくのが英語という科目の特徴でもあります。早めに時間を十分にかけてリードしておくのが、つらさをあまり感じずに一年を乗り切るコツです。だから、量も質もハンパじゃない課題に春期講習から取り組んでもらいます。

一学期は基礎を身につけてもらう時期になります。他のクラスと共通の教材も使いますが、より高度な内容にまで踏み込めます。文法は夏以降の本格的な英作文や早慶などの難しい文法問題を意識して習得してもらいます。読解は訳読が中心となりますが、これも夏以降入試問題に挑戦してもらおう際の基礎です。単語や例文の暗記ももちろんです。ここで基礎を身につけていれば夏以降の入試問題演習にスムーズに移行できます。

英作文や和訳などは添削をします。自分の答案の弱点を知ることで、記述式の問題の得点力を伸ばすことができ

ます。

る人、あなたは正しい。でも、毎年きちんとついて来た人は結果を出しているし、ついて来れば成果が上がることは分かっているのだから、楽と言えば楽です。やるかやらないかそれだけのだから。もちろん不安なことがあったら、小さな事でもいつでも相談してください。(澤根)

英語Bクラス

英語はできなくもないが、かといってばりばりできるわけでもない、という人たちがこのクラスには多いはず。なぜそうなのか？理由はいろいろあると思います。たとえば、勉強量が足りないから。逆にあまり深く考えずに量だけこなそうとしたからかもしれません。いや実は単語や構文を覚えてません、という人もいます。

このクラスでは、こうした問題点を着実につぶしていくことを目指します。勉強量については、毎回のコマ連続講義とその予習復習(2学期以降は自習課題も)で量を確保します。深く考えることについては、解説はできるだけ論理的にやりやすく、添削課題を通じて、一人一人がよく調べ、よく考えた答案を作成してもらいます。単語・構文の暗記は、一年を通じて繰り返し実施します。ですから、決められたことを丁寧に、欠かさずやれば、ある程度の力は必ずつきます。

でも、志望校に受かるためには、それぞれの受験勉強への高い意識が不可欠。同じ問題を、同じようにこなしていながら、あとで使える知識にできるかどうか……。講師も工夫しますが、みんなの緊張感が大切です。常に、今答え合わせをした問題が、志望校の入試で出題されたとき、わたしは正解を出せるだろうか、そう考えながら一年間がんばりましょう。(原田)

英語Cクラス

このクラスの諸君には、人生そのものを反省してもらいます。そこで、この一年間、次の約束を守ってください。守り通した人には明るい未来が待っています。

①毎日必ず英語を読み、書き、聞き、発音する。

絶対、毎日です。今、この瞬間から、毎日です。もし一日でも欠かしたら、地獄へ落ちると思ってください。語学力は継続が不可欠です。とにかく毎日根気よく続けること。しかも、読み、書き、聞き、発音することの四つを必ず欠かさずにやることです。黙読ではダメです。声を出して読むこと。データベースの単語・熟語テストを徹底してやりますから、この教材を使って、必ず毎日実践して下さい。CDも毎日必ず聞くこと。

②学校の英語もとことん真剣に勉強する。

「うちの学校の先生は最悪！」とか言うのは百年早いです。先生は最悪でも、教材を通じて英語に触れる機会はとにかく全て有効に活用すること。そして、どうせやるなら真剣に取り組むこと。それが上達のコツです。学校の授業中、居眠りとかしていたら、必ず私が起こしにいけます。「えっ、どうやって？」私ならそれぐらいできます。

③辞書をひきまくる。

今は電子辞書があるので、紙の辞書に比べたら楽なものです。とにかく、知らない言葉は辞書をひきまくること。訳語の日本語の意味がわからなかったら、国語辞典も同時にひくこと。

④塾で行う小テストは満点を取る。

最初から「全部なんて覚えられない」と決めつけていませんか。思い込みが左右していることに気付くべきです。意識を変えて下さい。「必ず満点を取る」という心意気を持って勉強しましょう。

化学総合

化学は理論・有機・無機の三分野について学習していきます。理論化学では、種々の化学反応、すなわち中和、酸化還元、溶液の性質、気体のふるまい、平衡などを理論的にとらえて、答えを導き出す、いわば計算問題を中心に取り扱っていきます。ここでは、化学現象がいかに起こるのかという**化学の基本的な考え方をしっかり理解**できるようにして下さい。有機・無機化学では知識的な所が多いため、**ポイント、覚え方など整理**しながら、授業をすすめていきます。現役生が不得意とする有機化学は特に時間を割いて演習・説明を行っていく予定です。

授業内の講義、演習をその場で十分に吸収しようという意識で取り組み、疑問点は質問、そして分からないものをできるだけ残さない努力をしていくこと。予習をする必要はありませんが、毎回の講義・プリントの復習は必ずして下さい。毎回、十分〜十五分程、授業の開始時に確認テストあり。

(湯本)

物理総合

物理総合は九十分二コマに分かれています。前半で自習してきた内容に関して疑問点や概念的に理解ができなかったポイントに関して整理を行い、予習した例題に関して検討を行い、各回の学習内容に関して理解を深め、後半でその単元の演習問題を解きます。

物理総合は物理ⅠⅡにこだわらず力学・波動・電磁気・熱力学の四分野に分けて受験に必要な物理の学習事項を網羅していきます。毎回の講義内容に対応したプリントが課題として課せられます。このプリントは提出↓添削↓返却という手順で実施します。復習も含めて丁寧に課題をこなせば、大変な力となります。

11月までにはすべての単元を終了し、その後は入試問題演習を行います。入試問題演習はセンター対策と

二次試験対策をおおよそ並行して行います。センター対策ではクラス平均80点以上となるよう丁寧に徹底した演習および解説を行います。二次対策としては中程度の問題から早稲田・慶應レベル、さらには国立レベルまで対応した問題演習を柱としています。

わかる喜び、解ける喜び、それを着実な練習の中から是非見つけ出して下さい。

(松山)

物理Ⅰ (添削クラス)

物理Ⅰは学年を問わずこの一年でセンター試験の物理Ⅰで八割以上の結果を残すことを目標に学習を進めていきます。物理Ⅰクラスは館山塾で新たに物理を受講する諸君を対象としています。

毎回の教材で新しい単元を学習し、基本事項の確認問題とその単元の基本例題とその解法及びその演習問題から一回分のテキストが構成されます。まず教材と基本事項の確認問題を演習してその回の定理・公式等について使い方を覚えていきます。次に基本例題を解いて、解説で確認して、その後提出用の演習問題を解いていきます。この課題はプリント形式で、提出↓添削↓返却という手順で実施されます。復習も含めて丁寧に課題をこなせば、大変な力となります。

九月までにはすべての単元を終了し、その後は入試問題演習を行います。入試問題演習はセンター対策をあまり意識せず、各単元の根本的な理解とその応用力を磨くことを目標とします。この時点でクラス平均センター七割以上となるよう丁寧に徹底した演習および解説を行います。最後は冬期講習で実践演習を積んで本番の試験へと向かいます。

自分の目標とするレベルをしっかりと設定してその目標に向かって一年間努力を積み重ねましょう。

(松山)

日本史 A・B

Aクラスでは日本列島の歴史の「前半」に当たる旧石器時代から江戸時代初期までを学びます。Bクラスでは江戸時代中盤から現代まで。両クラスで異なる時代を同時進行でこなしていくことで、一年足らずで全範囲を網羅します。さらに毎回の復習テストと宿題プリントで否応なく実力をつけてもらいましょう。

覚えることが苦手な人は、つい日本史の勉強を後回しにしてしまいがちですが、それは畏にはまったくパターンです。苦手だからこそ、とにかく最初の一手を早くに打ち込むこと。それがこの春です。

講習に向けて宿題は特に設けません。ただし、限られた時間の中で広範な学習を求めますから、かなり忙しいこととなります。自分の予備知識に不安のある人は、あらかじめ解答つきで配布してあるテキストに目を通しておくといいでしょう。そのうえで、ひたすら毎日、完全に覚えきるまで復習することです。春期講習中にその姿勢とペースを身につけてください。

(佐治)

世界史 A・B

Aクラスで古代から近代前半にかけて、並行してBクラスでは近代後期(十八世紀以降)から現代史を範囲とします。A・B両クラスの両輪で全範囲をくまなく網羅し、さらに毎回の復習テストと宿題の入試演習で、実力者へと変身です。

講習中は、毎日完全に覚えきるまで、何度でも繰り返し復習すること。これを年間のうちに何度かやるのです。

授業範囲に予備知識がなくても分かるよう進めますが、あらかじめ解答付きで配布したテキストに目を通しておきましょう。「一年の計は春期にあり」。ここできつちりやっつけていくペースをつかめば、一年間の勉強はあつという間だったなあ、と終わりになって振り返ることができるでしょう。

(佐治)

講師自己紹介

氏名(担当科目)

- 一、卒業在学大学・学部名
- 二、専攻
- 三、趣味
- 四、塾生へ一言

◆ 国語科



胡子俊英 (古典)

- 一、東京大学文学部中国哲学専修課程卒
- 二、哲学の根本問題と荘子思想の地平
- 三、山歩き、龍笛
- 四、雪原にテントを張って寝て、朝起きてみると枕元の水筒が凍っています。試練は人間を強くします。



三輪裕治 (現代文)

- 一、東京大学文学部社会学専修課程卒
- 二、近代化と比較社会学
- 三、サッカーの研究、老父母の介護
- 四、最後の一秒まで自己のベストを尽くして闘うこと (FIFAフェアプレイ憲章第一条)。

◆ 数学科



松山秀行 (数IAIIB・IIIC A)

- 一、東京大学法学部卒
- 二、私法
- 三、双子の成長過程観察
- 四、思い上がった発想と確実な計算力を身につけよう。



熊倉幹男 (数IAIIB・IIIC B)

- 一、東京理科大学理学部数学科卒
- 二、確率過程論
- 三、多摩川沿いの散歩
- 四、興味を持つことと向上心。これで完璧だ。

◆ 英語科



澤根誠 (A)

- 一、東京大学大学院総合文化研究科博士課程卒
- 二、文化人類学
- 三、読書、双子の観察。
- 四、入試は七、八割の得点で合格できます。完璧主義に陥らず、どんどん先に進みましょう、若いのだから。



原田勝 (B)

- 一、東京外国語大学外国語学部卒
- 二、ロシア語
- 三、ソフトテニス、浦和レッズの応援
- 四、どうせやるなら何事も一所懸命に。常に、今自分は何のために、何をやろうとしているのか、そしてどうすれば一番効率が良いかを考えましょう。お手伝いします。



胡子俊英 (C)

- 一、東京大学文学部中国哲学専修課程卒
- 二、哲学の根本問題と荘子思想の地平
- 三、山歩き、龍笛
- 四、雪原にテントを張って寝て、朝起きてみると枕元の水筒が凍っています。試練は人間を強くします。

◆ 社会科



佐治恵 (日本史AB・世界史AB)

- 一、慶応義塾大学大学院文学研究科修了
- 二、「生の哲学」から現代の諸問題を考えること
- 三、子どもの本の読み聞かせ、アート鑑賞
- 四、自分の持てる力をフルに出し切ることを、受験勉強を通じて会得してください。

◆ 理科



松山秀行 (物理総合・I)

- 一、東京大学法学部卒
- 二、私法
- 三、双子の成長過程観察
- 四、思い上がった発想と確実な計算力を身につけよう。

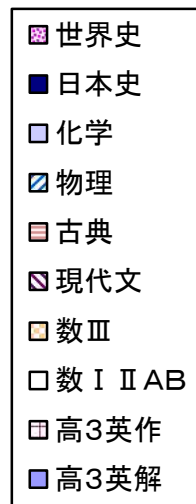
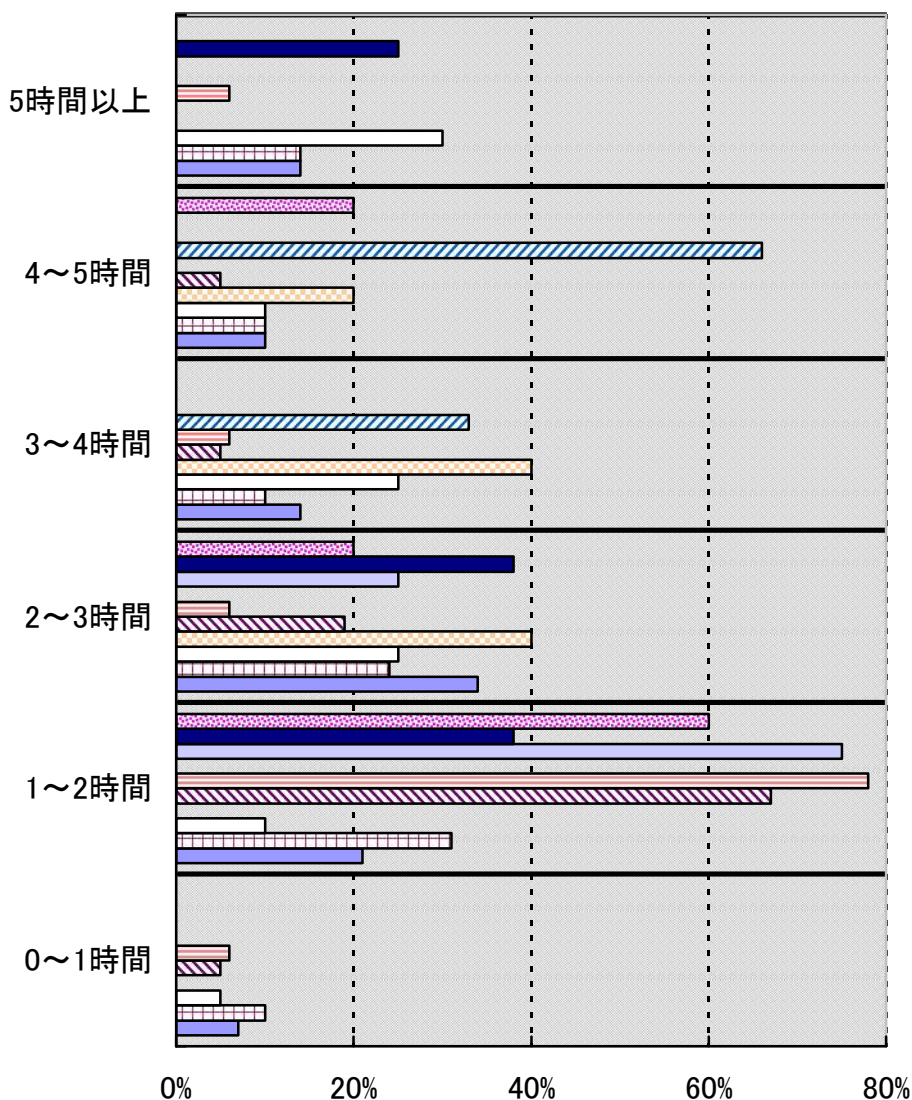
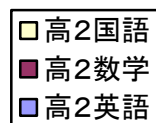
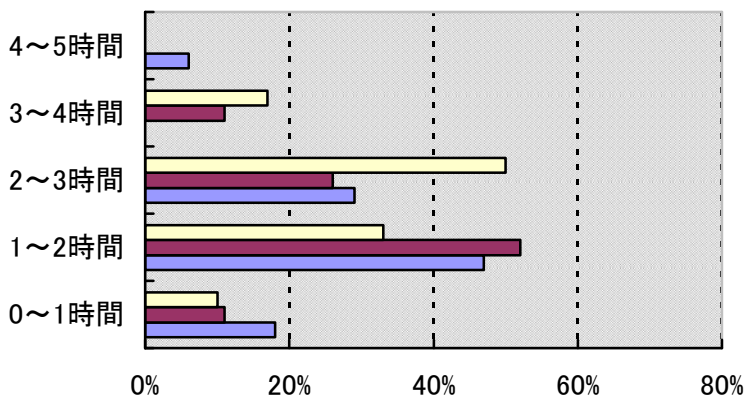
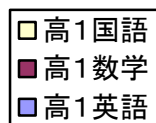
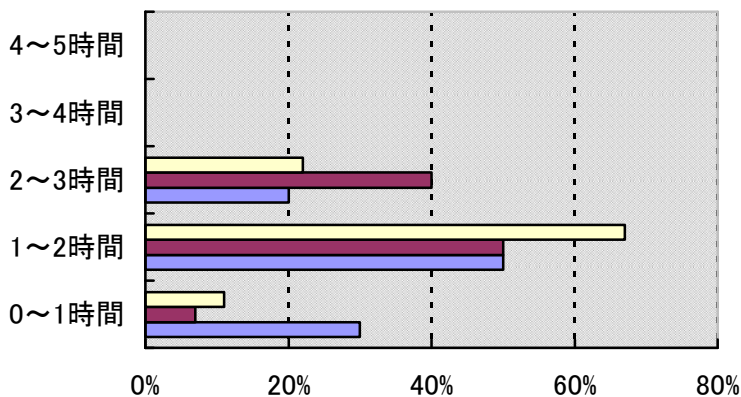


湯本健吾 (化学総合)

- 一、東京理科大学理工学部卒
- 二、工業化学科有機物理学専攻
- 三、授業。
- 四、十分な理解と十分な実力を得るには、十分な時間が必要なのです。あせらず一歩一歩進んでいこう。

勉強時間アンケート調査結果

単位%



このページのグラフは、昨年度高校在籍者が各受講科目の予習・復習に1週間平均してどれだけ時間を使ったかを尋ねたものです。これは、あくまでも一回の塾の授業に出席するために必要だった時間です。それ以外に自分で計画して受験勉強全体を組み立てていかねばならないのは当然ですね。

